



森のなかま

2012年12月号
NO.56 (継続201号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102



赤ちゃんと、ともにはぐくむ森づくり



“平成24年度 成長の森 見学会が開催されました”

神奈川県が平成19年度から開始した成長の森事業の平成24年度の見学会が11月3日(土・祝)(曇り)と10日(土)(晴れ)の両日に開催されました。今年度も例年と同様、かながわ森林インストラクターの会のインストラクターが述べ32名、案内役を務めさせて頂きました。

木々は紅葉が始まっており、両日ともに天候に恵まれ、おじいちゃんおばあちゃんやご両親と手をつないで植栽地に向かう子どもさんの様子、植栽された苗木の見学や植栽エリアのお子様の名前記載板の前での写真撮影には微笑ましいものがありました。また、4~5歳のお子様が比較的なだらかな道とは言え、往復歩き通したことには驚きました。

昼食事のやどりき名物の“鹿シチュー”は皆さん初体験の様でしたが、お変わり続出の大好評でした。

植栽エリア手前の絶景ポイントから相模湾・大島を見ることができた幸運な方もいらしたようでしたし、今回の見学会に御参加頂いた93家族298名の皆さまにはご満足いただけたのではないのでしょうか。

この森の10年後、20年後がどのようになるか楽しみでもあります。 (記：7期 坂齋 明)



成長の森
1号車

本年度の1号車到着



相模湾、大島を望む(残念)
撮影時は晴れすぎて霧が発生



広場の紅葉
(今年はこれからでした)



目指せ 成長の森



名前記載板前(立派な盤です)
我が子、孫の名前は



名物“鹿シチュー”

(写真 7期 伊藤 氏、広報 松本)

(公財)かながわトラストみどり財団 みどり森林課 初山 様 より

「成長の森」は、子供の健やかな成長と苗木の成長とを重ね合わせることで神奈川県森林再生への理解と協力を継続的に得ようと、平成19年よりはじめられた事業です。

今年度は、3枚の名前記載板に550名のお子様のお名前が記載されました。今回の見学会も森林インストラクターの皆様のおかげで、両日ともに天候に恵まれ、大きな事故もなく無事に見学会を終えることが出来ました。2日間のご協力、ありがとうございました。10日の紅葉はとてもきれいでした。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

“水源の森林づくり街頭キャンペーン (第35回川崎市民祭)”
 かわさき市民祭会場 健康の広場 11月2日(金)(晴れ)、3日(土)(曇りのち晴れ)、4日(晴れ)

今年の、かわさき市民祭りは、川崎競輪場の改修工事初年度に当たり、キャンペーン系はすべて、「健康の広場」(富士見軟式球場)に集約された。私どもも、キャンペーンそのものは、無事にこなしたものの、人出に恵

生まれて初めての丸太切り



ドングリクラフト
ボクよりも夢中のパパとママ



まれなかったことは残念だった。9期中島氏製作の、丸太切り用折りたたみ式ウマ2基を新規投入。中央の支えが可動式で、必見の価値がありそう。今後の、丸太の効率運用に期待したい。

キャンペーンの一連の流れは受付でのリーフレット、クイズの配布。紙芝居コーナーでは、「森林の役割」や「森は緑のダムの話」などを分かりやすく説明。ミニチュアの森(水源かん養実験コーナー)には興味津々。子供たちもインストラクターの話に聞き入っていた。クイズの景品は「竹笛」や「書けない鉛筆のストラップ」など手造りのプレゼント。次のコーナーは間伐材丸太切り体験。初めての丸太切りに子供たちも感激。丸太の切れ端とドングリなど木の実を使った工作への挑戦。子供も大人も一生懸命。素敵などングリ工作が完成。満足そうな笑顔を見るたびにインストラクターもやりがいを感じている様子が伺えた。広報コーナーでは募金に協力していただいた。多くの方々には、「かながわ水源の森林づくり」に関心を持っていただけたことと思う。

キャンペーンの最終日。結果として、イベント開催期間中はもちろん、集荷・返却までの五日間、雨にならずに、無事に済んだことは珍しいこと。最近、丸太切り用小径木の安定的な入手が、難しくなっている。プレカットの丸棒コースターでの代用など、新たな工夫が必要となりつつある。

- 参加人数 : 11/2 199人 (大人184人、子供 15人)
- 11/3 262人 (大人150人、子供112人)
- 11/4 346人 (大人140人、子供206人)
- 合計 807人

(記 : 5期 森本 正信、10期 宮下 修一)

森林探訪 シダング山 「五感をみがく晩秋の山歩き」 (自然観察部会)
 11月17日(土)(雨)

前日の天気予報は雨、多数のキャンセルが予想され開催が危ぶまれたが26名(男性9名・女性17名)の参加が有り非常に嬉しい限りです。インストラクター12名と共に新松田駅を臨時バスで定刻の8時25分に出発、寄バス停にてオリエンテーションを実施して出発したところで雨が降ってきました。大寺地区から林道・登山道を経由してシダング山を目指しましたが、林道は“なかなか”の急登でみなさん一汗かいて調子が出てきたようでした。11時過ぎにシダング山山頂に全員無事到着、雨模様で視界は不良でしたので早々に出発、虫沢林道を目指します。虫沢林道から本格的な自然観察の開始です。みなさん広い林道をゆったり歩いて少人数での説明に真剣に耳を傾けていました。

林道秦野峠に到着すると雨が止みお昼は傘なしで食べる事ができて幸運でした。峠では冷たい風が吹き、みなさん体が冷えてきたようで昼食後すぐに出発です。秦野峠林道はじっくりと観察ができ、雨に洗われた紅葉が素晴らしい色彩で満喫できたのではないのでしょうか。やどりき水源林には2時半過ぎにすべての班が無事到着、15時15分の臨時バスで出発、雨中の森林探訪でしたがみなさん満足していただけたと思えました。



(記 11期 松永 廣)

私の認識

野鳥その104

高橋 恒通

今月ご案内はユニークな形状の嘴を有する淡水ガモのハシビロガモ(漢和名:嘴広鴨、英名:Common Shoveler、体長L=50 cm)です。

ハシビロガモは、その多くが我国に冬鳥として渡来しますが、北海道で少数が繁殖している事も確認されております。

ハシビロガモの成長♂の体色は、黒い嘴、頭部は黒色、(しかし光の当たる加減で緑色から青紫色に金属光沢が変化します)、首から胸前が白色、背面は黒褐色(しかしよく見るとベージュ色の輪郭線で区切られた多数の大き目な笹の葉状の羽の集合体です)、体側面(脇腹)と体下面が赤褐色、尾羽の下部は白色、虹彩は黄色、脚部や水掻きは橙色、そして時折り見せる翼鏡は緑色です。これに対し成鳥♀は濁橙色の嘴、虹彩は茶色、体全てが褐色(よく見ると背面は濁白色の輪郭線で区切られた数多くの笹の葉状の羽の集合体です)、脚部と水掻きは♂同様の橙、そして翼鏡も♂と同じ緑色です。

♂♀共に頭に対して不釣り合いな大きく幅広い嘴を有するハシビロガモは、ビギナーでもいっぺん見れば確実に覚えられます。



“名は体を表わす”と言う常套句がありますが、ハシビロガモは洋の東西を問わず“体が名を表わす”の典型と私は認識しています。

英名のシャベラーは「シャベル」、和名の「嘴広」は、正しく体が名を表わしている訳です。

ハシビロガモの棲息環境は、湖沼、河川、池や湿地です。その採餌様式がユニークで、少数または多数が水面を円を描く様にぐるぐる泳ぎ回り渦をつくります。その結果としてプランクトンを渦の中心に集め、それを扁平なあの嘴を左右に振り乍ら水と共に吸い

込み、嘴の周囲にある歯ブラシ状の「クシ」で濾過して食べるそうです。プランクトンばかりでなく水面に浮んだ細かい藻類や有機物なども同様に濾過して食しております。

ハシビロガモの世界地図上に於ける棲息域は、コガモ、マガモ、オナガガモなどと同様で、北米大陸はメキシコからアラスカまで(カナダの東北を除く)、ユーラシア大陸は、ロシア極東域からイベリア半島、英国まで(除くスカンジナビア半島、ロシアの北極圏)と相当広域です。

この様に広域で棲息繁殖している割には当県では必ずしも多く観察できるカモ類とは思えません。私がビギナーの頃に最初に観察したのが花水川で、その次が相模原遊水池でした。日本野鳥の会神奈川支部の2010年度県下一斉ガンカモ調査結果によりますと、総計でカウント数の多い順に記しますと下記の通りです。

コガモ:4328羽、ヒドリガモ:3176羽、カルガモ:2517羽、スズガモ:2209羽、キンクロハジロ:1346羽、マガモ:944羽、オナガガモ:726羽、ホシハジロ:690羽、ハシビロガモ:276羽、オシドリ:220羽、オカヨシガモ:166羽、ヨシガモ:43羽、カワアイサ:43羽、アメリカビドリガモ:5羽、ホオジロガモ:4羽、トモエガモ:1羽、ミコアイサ:1羽でした。

因みにハシビロガモが最も多かったのは、浮嶋処理場池191羽、長浜池22羽、多摩川中～下流域15羽、酒匂川13羽、目久尻川11羽、境川遊水池10羽、引地川下流7羽、相模川貯水池4羽などです。

拙稿をご愛読の同志の皆様には、この愛すべきキャラクターを有するハシビロガモを頭の何処かに留めておいて下されば幸甚です。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社
◎とり、自然ガイド、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、文一総合出版
◎日本野鳥の会神奈川保護研究部、2010年ガンカモ類一斉調査集計結果

(イラスト) 広報 大塚 晴子

(森林部会)

『人工林整備技術研修会 (チェーンソー間伐)』

10月21日(日) 21世紀の森 生産の森

戸谷 和男 <6期>

講師4名を含めて総勢24名が21世紀の森の駐車場へ集まりました。研修場所の「生産の森」は21世紀の森の上部の平坦な樹齢40年以上のスギ林、研修者は足場の不安もなくチェーンソーの取り扱いや伐倒作業を慣れた姿勢で出来るので研修ポイントに集中できる好条件でした。

研修の講師役は、三重県の森林施業「NPO 法人森林の風」で活躍していた井伊秀博さんをリーダーとして6期の加藤さん・武川さんと11期の前田さんが担当し、9時15分に佐藤部会長が挨拶を行って研修がスタートしました。

研修は、秋の日差しの下でチェーンソーの構造・部品の機能・手入れと安全な取扱い方法に関する約1時間半の座学の後、研修コースとして設定した「初心者コース」と「掛木処理コース」の実習内容の説明が有り、参加者は自分の受けたいコースを選択しました。

「掛木処理コース」はリーダー講師の井伊さんが担当し、最初にクサビの使用が伐倒対象木の重心移動に大変効果的である事と、掛木の処理にはツルを中心とした掛木の回転が有効であることを説明し、実際に立木の伐倒にクサビを使用して掛木とし、フェリングレバーで掛木を処理するデモンストレーションを行いました。その後、4班に分かれた参加者11名は、1班毎に指示された伐倒方向に立木を倒して掛木とし、班のメンバーはフェリングレバーで掛木を回転させての掛木の処理を実習しました。1班が実習作業を行っている時に他の班は見学者ですが、実習が進むにつれて何度も掛木処理作業を目にします。皆さん経験豊かな社業者の如く見学班からも作業班への助言が飛び交うようになりました。参加者で9本の掛木処理をしましたが、私達インストラクターの会のメンバーが手鋸でやってきた伐倒・掛木処理と大きく異なる点はロープを一度も使用しなかった事です。参加者は掛木を回転で処理する技法に加えてクサビやフェリングレバーの利用価値を再認識したのではないのでしょうか。

「初心者コース」は研修生8名に対してインストラクターの会の講師3名と「森林の風」からの応援者1名。講師陣の「講師の目の届く範囲で研修者が作業を行い、作業結果を講師と見直す事が、初心者が安全にチェーンソーを扱いチェーンソーに興味を持つ基本になる。」、と言う考えからマンツーマン的な実習体制がとられました。研修生は事前に倒しておいた2本の倒木を利用しての玉切・枝払いの実習を繰り返し行い、斜め切り・水平切りの実習も倒木を利用して行いました。今日初めてチェーンソーを持ったという初心者も午後の実習では慣れた操作を行うようになり、実習の最後には講師の指導で実際に立木の伐倒を行いました。手鋸で倒すより短時間で伐倒作業が出来る反面、チェーンソーでは瞬時に切り進んでしまうので確認しながら慎重に作業を進める事の必要性を感じていました。

実習を2時半に終了して全員で研修会を振り返りました。参加者の満足した声に併せてチェーンソー購入希望の話が出た時には講師の顔も綻んでいました。

晴れた秋空の下での研修は参加者にも講師にも大変素敵な1日となったようでした。

座学と実習内容の説明



フェリングレバーによる掛木処理



初心者コース 見よ! この上達ぶり



活動短信

10/1~10/18

10、11月はNW活動が多く投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものが多いです。予めご了承下さい。

◆ 県民参加の森林づくり（広葉樹植栽）

日 10月3日(水) 10時30分~14時30分、曇り

場 箱根町仙石原(町有林)

参 大人85名

財 豊丸様、永島様 看 青木様

スタッフ 小田原市森林組合 職員2名

イ L 松村(俊)⑧、大塚①、渡辺③、落合③、宮本④、大道⑥、齋藤⑥、久保寺⑦、愛木⑦、坂齋⑦、篠原⑨、柴⑩、上宮田⑩、松本⑩、東(昭)⑫、加藤(久)⑫

マイクロバス6台に分乗し小田原駅を定刻に出発するも箱根道は事故渋滞で予定より一時間遅れで到着。オリエンテーション後、5班編成でそこからさらに機材置き場まで30分歩く、機材置き場では小田原市森林組合より植栽方法について詳しく説明をいただき準備頂いた800本の根巻き苗木を各自(8~10本)苗木用リュックに入れ背負う。これから、さらに山道を登ること20分、ようやく本日の植栽場所に到着したのは12時20分を過ぎていて予定では植栽終了時間である。水分補給と休憩後、植栽のデモンストレーションをし安全に作業を進めることを確認し合った。植栽地は急斜面で足場が悪く、大きな石もある。木々をかき分け穴を掘り、さらに苗木を担ぎながらの移動植栽は時間と労力を要する。そこで我々のグループはインストラクター3名が植栽場所のポール横に苗木とくくり紐をセッティングして回ることにした。参加者は斜面移動も少なく安全面も確保でき手際よく作業が進んだようだ。参加者は斜面移動も少なく安全面も確保でき手際よく作業が進んだようだ。下山後、道具の手入れ、片づけを終了し、昼食。アケビやサルナシなど秋の実りを楽しみながらバス発車場所まで戻る。バスに揺られ心地よい疲労を感じながら15時30分頃小田原駅で解散した。

(記 11期 上宮田幸恵)

◆ 水源林保全体験（県企業庁サービス協会）

日 10月6日(土) 8時45分~17時、晴れ時々曇り

場 箱根イタリ一水源林

参 36名(大人26名、子供10名)

スタッフ (財)神奈川県企業庁サービス協会

イ L 高橋③、小沢⑨、村井⑨、渡辺(敏)⑫

水道を利用している県民が、水源林の意味を理解し、その保全に関心をもってもらうことを目的とするもので

ある。参加者は大人26名、子供10名。往路のバス車中で、主催者からの趣旨、行程の説明のあと、高橋リーダーの「水について」のミニ講座が行われ、すべての水の内、私達が使える真水の量はごくわずかであること、森林が緑のダムであること、森林に感謝しようなど平易に説明された。現地では、下草刈り体験にあたり、リーダーより大鎌の扱い方、ハチに注意など安全に関する諸注意。準備体操のあと、4班に分かれて現場に移動し下草刈りを体験してもらった。現場は1班が傾斜地以外はほとんど平地でいわゆる下草刈りとは趣が異なった所である。特に私が受け持った4班は道端の雑草刈りといった感じであった。が、大人夫妻1組、あとは母子3組で、子供に指導しながらの草刈りも良い体験になった。わずかな時間ではあったが、子供も頑張り、また取水槽に山の水が流れ込む清らかな音も間近に感じる環境で、「楽しかった」との子供の感想も聞こえずは安心した次第。また作業での怪我もなし。昼食は箱根ビジターセンターに移動。帰路、県立生命の星・地球博物館の見学では、「地球・水・生命の誕生のはてな？」のガイダンスと館内見学が行われ、参加者にとっては有意義な一日ではあったと思われる。

(記 12期 渡辺 敏幸)

◆ 自然観察（かながわトラストみどり財団）

日 10月6日(土)、晴れ時々曇り

場 湯河原幕山公園→しとどの窟→城山→城願寺→湯河原駅

参 8名

財 河野様 看 小林様

イ L 女川⑨

参加者が少なく寂しい観察会となったが、話をするには手ごろな人数と割り切って、あまり知られていない、とっておきのコースを案内した。

“秋の植物観察”をメインテーマにしたが、草花の観察場所の多くは湯河原町の公園になっているため、所々で公園管理上の草刈りの“被害”を受けた。それでもこの時期を代表するコシオガマ、セキヤノアキチョウジ、ヒキオコシ、ホトギス、ヤマハッカ等々を堪能し、タマゴタケの群生との遭遇というおまけも付いた。

また、コースには9月24日に認定された「箱根ジオパーク」のジオサイト(見どころ)が3か所含まれていたため、その紹介には特に気を使って準備したが、参加者には耳慣れないらしく、反応はイマイチだった。

その一方、森林の話には関心が高く、話すべき内容の少ない住宅地の下り坂で質問攻めにあつた。もっと詳しく聞きたかった、といううれしい注文もあった。

(記 9期 女川 修)

◆ 川崎市里山ボランティア育成講座(第4回)

日 10月6日(土)9時～15時、晴れ時々曇り

場 講義: 新川崎・創造のもり

実習: さいわいふるさと公園

参 一般市民による講座メンバー30名

スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか9名

地元活動団体見学者11名

イ L 金森⑩、清水⑧、小林⑩、大橋⑪、
門澤⑫、山崎⑫

全6回講座の第4回目。集合予定の9時30分には参加者で会議室が満員になった。オリエンテーションに続いて本講座第2回目で学んだ毎木調査と記録作成方法の具体的な確認を行い歩いて数分の作業現場へ向かう。調査はエリアから主な20本を選び1から20の番号が書かれたテープをホチキスで止めてゆき、これと同時に樹木の位置、幹の外周、樹高などを記録する。13種類の樹木名が書かれた札を付ける。さらに20本に入らなかった本数を記録する。昼休みを利用して参加者が楽しみながら樹木名を覚えられるように公園の地図と葉っぱの写真を配布し、現地には樹木名を掲示した。宝探しのようなクイズ形式で多くの参加者がトライしていた。午後は樹木の伐採にとりかかる。隣接するフェンスを破損しないようにロープを駆使して倒す方向や切り株の高さを調整する。人数が多いため丁寧な作業ができた。引き続き現場にて東京農工大 飯島一浩講師による昆虫観察会を行う。草むらではバッタの仲間が多数みられ、花壇では蝶を採取して解説がされた。里山が好きな参加者は昆虫に興味がある方が多く、日頃の疑問を質問していた。次回、第5回目は11月17日(土)幸市民館日吉分館に集合し座学(植樹後の木の手入れなど)、さいわいふるさと公園にて作業(樹木の間伐、枝打ちなど)を予定する。

(記 10期 金森 巖)

◆ 自然観察 (足柄宿泊体験コースの2日目)
(横浜市立能見台南小学校)

日 10月13日(土)9時45分～14時、晴れ

場 県立21世紀の森 (天然の森コース)

参 5年生4クラス 153名、教師他 11名

イ L 杉戸⑥、友谷①、宮本④、高崎④、伊藤⑦、
武者⑦、野田⑧、草野⑧、三浦⑧、小林⑨、
上宮田⑪、松永⑪

穏やかな秋空の下、153名の小学生が元気に「天然の森コース」の自然を楽しんだ。朝のバスの到着が遅れ、予定の時刻を30分過ぎて開会式がスタートした。前日の宿泊体験での寝不足の様子が見られたので、気になる生徒さんには、直接声かけて健康状態をチ

ェックし、慌ただしく4クラスが12班に別れ歩き始める。

スタートしてすぐに「ムクロジ」の説明、ペットボトルを使ったインストラクターの実演に、皆興味津々、ここで早くも昨夜の寝不足を忘れ、元気モードと好奇心にスイッチが入ったようだ。目に飛び込んできたもの全てが興味の対象となり「ジョロウグモ、キバナアキギリ、サラシナショウマ、トリカブト、カラムシそして森の役割」の説明に生徒さんの目が一斉に輝く。(これだからインストはやめられない)スタートの遅れを取り戻すため、昼食時間を20分に短縮しヒヤリハットなしで13時45分には下山、予定の時刻14時に帰路のバスを全員で見送って散会となった。

(記 9期 小林 保喜)

◆ 間伐体験 (三菱重工技能系新入社員)

日 10月15日10時～13時、晴れ

場 やどりき水源林

参 24名(新入社員22名、引率2名(山崎様、堀越様))

県 自環境 水源の森林推進課 内田様

イ L 松本⑪、坂齋⑦、野田⑧

9月14日に続く新入社員の間伐体験コース。間伐場所は三菱重工のエリアにはもう対象木がないのでトヨタプリウスの森より上の県所有林でΦ15～20cm位の材の間伐しました。最初に自然環境保全センターの内田様より水源林について「水は森林からやってくる」のリーフレットをベースに講話がありました。続いてLの松本より間伐の必要性、方法、安全について話をしました。特別注意でハチがいるかもしれないので、手で払ったりすることはしないように強く言いました(実際に作業中に小型スズメバチが周りを飛びまわりましたが、皆さんははじめの注意を守り悲鳴は上げましたが払うような刺激行動をとらずずっと我慢してくれました)。準備体操をして20分位の場所へ移動し、3班に分かれ作業を行いました。1～2本の間伐で班によっては輪切りのコースターを作った班もありました。こんな話もできました。女性でノコギリを上手に扱う人は料理も上手いといったら社員の人から「それでは間伐で合コンをやるといいですね」と、とてもユニークな発想ができました。

(記 11期 松本 保)

◆ 高取山登山をしながらの自然観察
(横浜市立三保小学校)

日 10月15日(月)、晴れ

場 県立愛川ふれあいの村から高取山

参 小学生 4年生 171名 教師 15名

イ L 足立④、高橋③、高崎④、佐藤⑤、武者⑦、
伊藤⑦、渡部⑦、三浦⑧、内野⑨、小沢⑨、
村井⑨、杉崎⑩、橋本⑩、永松⑫、西出⑫

実行までに多少の紆余曲折があったが、堀江さんの積極的な働き掛けで実現の運びとなった。9月28日の下見を経て、当日は秋晴れの空が広がる絶好のコンディションの中、各班(約12名)毎に分かれて、1班がふれあいの村で自然観察を行い、14班が高取山を往復した。登山班は10時過ぎに出発し、下見の時に見かけた草花が半月間で少なくなっていたのが寂しかったが、さわやかな森の中を元気一杯に登山を楽しみ、14時40分までに全員無事、戻ってきた。特に問題は出なかったが、自然観察班でヤマビルに遭遇したこと、登山班で児童1名が軽い捻挫をしたとの報告があった。

・児童語録①:「メチャセコイア？」

私が「この木はメタセコイアと言う木で、日本人によって化石が発見されていましたが、70年程前に中国奥地で生きている木が発見されて世界的なビッグ・ニュースになったよ。」と説明したら、男子児童が「中国はメチャ、せこいから、メチャセコイアの方がいいじゃ。」と発言したので、びっくり。今の子は時事にも強いと感心。

・児童語録②:「一富士、二鷹・・」

私が「面白い諺を言うね。一蜘蛛、二蛭、三蝮。先頭の方は蜘蛛の巣に引っ掛かり、二番目の人は蛭に吸われ、三番目の人は蝮に噛まれやすいよ。」と言ったら、男子児童が「一富士、二鷹、三茄子の様なもんだ。」と発言。今の子は知識が豊富と感心。

(記 12期 西出 健一)

◆ 水源林散策

(神奈川県森林組合連合会(県森連))

2012国際協同組合同年「協同組合体験・交流学校」

日 10月18日(木)11時~12時30分 曇り時々小雨

場 やどりき水源林

参 大人13名(男1名、女12名)(申し込み20名)

スタッフ 県森連 小塩様、他1名

イ L 齋藤⑥ 高橋③

やどりき水源林散策と森林の手入れ(育林施業)の必要性(特に間伐について)を目的として行なわれた活動である。参加者(生徒)が予定より少なかったけれど、散策は2班に分けて川沿いの林道を集会棟~堰堤前までの往復で自然観察を行った。時折り傘を開く空模様の中で植生を中心に自然観察は質疑応答を多く入れ乍ら行なった。約50分程度 of 自然観察の後、集合棟2階に於いて齋藤リーダーが準備された育林施業に関する資料を配り、リーダーによるレクチャーと私僅かな補足説明、そして質疑応答で、ほぼ予定通りに12時半過ぎに終了する事ができた。天候状態と季節の花が少ない中であつたが、参加者2~3人の感想は望外に良かったのは少ない参加者のため、逆に纏まりが

良かったからなのか----と勝手に解釈した。

(記 3期 高橋 恒通)

略語の説明

日 :日付、場 :場所、参 :参加者、

県 : (自然環境保全センター) 自環保・水源の森林推進課

財 : (公財)かながわトラストみどり財団)

スタッフ 例 小田原市森林組合・佐藤様

例 川崎市公園緑地協会・野牛様

看 : 看護師、イ : インストラクター(○数字:期)



本の紹介

村井正孝<9期>



丹沢山地で進められている自然再生プロジェクトの全貌をまとめた『丹沢の自然再生』を11月20日に日本林業調査会から刊行しました。

書名:丹沢の自然再生

編者:大平勇吉、勝山輝男、田村淳、山根正伸、羽山伸一、糸永浩司、原慶太郎、谷川潔、

規格等:B5版、並製、カラー、612頁、

ISBN978-4-88965-225-3

定価:6,000円(消費税込み<本体価額 5,174円>)

執筆者の中には秦野ビジターセンター館長の長縄今日子様や私たちの会の久保理事長、森林保全活動では講師で活躍されている6期の川又正人様もおります。

申し込み用紙を利用しますと特別割引価額5,000円(税込・送料無料)でお届けできるそうです。用紙は厚木事務所、やどりき水源林管理棟にありますので、早めにご利用ください。

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.htm>

かながわの水源地環境の
保全・再生をめざして

かけがえのない神奈川の水源を守るために



やどりき水源林
ミニガイド

11月のトピックス

11月初めの始まった頃の紅葉



(広場近くの紅葉)

・12月の水源林

今年は遅い秋。晩秋を求めに水源林を訪れてください。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。

清流にチョット手を入れて冬の気配も感じてください。

(ゴミは必ずお持ち帰りください)

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月は休止です)

(来春のお越しをお待ちしています)

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財) かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348

fax:045-412-2300

●ホームページ：http://www.ktm.or.jp

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

松田きらきらフェスタ

11月下旬～12月下旬



延命寺
蔵の市(ダルマ市)

12月28日(金)



◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail:s.akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax:045-301-9401

電話連絡先:090-7962-3168

Mail:matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mail:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

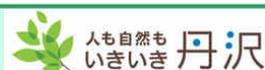
〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:l2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。



丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページは下記URLでごらんください。

http://www.tanzawasaisei.jp/

編集後記

★今日、庭をクリスマスバージョンにいたしました。これから慌しい年末ですね。また来年もたくさん素敵なお知らせがありますように。(赤崎)

★3年におよぶ新しい歌舞伎座の建設が愈々大詰めを迎え、来春4月から始まる柿落とし公演の日程が決まる中、歴史の継承をしながら、新しい瓦は三河で焼いたもの、花道などの板は丹沢・諸戸から切り出されたヒノキが使われています。来春は歌舞伎座に足を運びたいものです。(村井)

★卯の刻も迫るも外はまだ暗く、寒さ厳しい布団の温もりとの闘いです、負けそうです。(小沢)

★11月中旬小学5年生30名と共に久野の森で間伐体験学習を行なった。全国広しと言えどこんな体験が出来る環境の子供はまれであろう。関係者に感謝しつつ、一人でも将来インストになってくれる事を思いつつ。(徳岡)

★もう、風邪をひいてしまいました。今年の冬は寒暖差が激しいとのこと、みなさんも注意してください。(水口)

★年齢を重ねると一年の辰(たつ)のが早いです。動作は長く(鈍く)、気は短くなりました。反対にならないものでしょうか。(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人: 小沢 章男

事務局: 竹島 明

広報部: 水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

富士山を見ながら

大野山アウトドア ふゆフェスタ♪

第1回

イベント

- ▶ 地図読み講座(三角点を探せ)
- ▶ ノルディックウォーキング体験
- ▶ 地元物産販売
- ▶ アウトドア・アウトレット
- ▶ フォトセッション チェーンソーアート実演

抽選会 12:00より

開催日

12/9

10:00~14:00

会場

大野山山頂

300

名額

アクセス(極力ハイキングで)

- ハイキングコース
- ・御殿場線 谷峨駅より(徒歩2時間半) 駅→嵐→頼朝桜(トレ有)→大野山山頂
- ・御殿場線 山北駅より(徒歩3時間) 駅→大野山入口→鍛冶屋敷→共和小学校→イヌゲリ→大野山山頂
- 車でのアクセス
- 国道246号より(車で20分)
- 大野山入口→鍛冶屋敷→深沢→大野山山頂手前駐車場

抽選で素敵なアウトドア関連グッズをプレゼント!!